



佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園中学校・高等学校 校長 佐々 信行（さっさ のぶゆき）

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）・ワシントン補習授業校を経て、現職。

危険に備える

子どもたちを危険から守るのは、大人の責任であり、学校もその重要な一端を担わなければなりません。日本の学校現場にも対応を迫られているいくつかの緊急課題があります。

◆ インフルエンザ

今年の秋は、日本の学校は前代未聞の出来事に右往左往させられました。新型インフルエンザの流行です。いわゆる鳥インフルエンザのような強毒性のものではないと言われているものの、感染力が強く、多くの学校が学級閉鎖や休校、行事の変更に追い込まれました。

春に国内で初めての感染者が出てから、修学旅行や体験学習のような旅行を伴う行事は、中止や延期にする学校が相次ぎました。学校としては大丈夫だろうと思っても、不安を感じる保護者がいれば、それを押してまで強行はしないという学校が多かったようです。

啓明学園では、十数名の生徒がテキサスの姉妹校を訪問することになっていました。テキサスは「豚インフルエンザ」の患者がアメリカで最初に出たところでもあるので、注意して連絡を取り合いました。6月ごろには姉妹校の担当者からも、留学中の生徒からも「もう安心です。」という連絡が入りました。逆に、テキサスから来ている留学生が自宅に電話をしたところ、日本での騒ぎが連日報道されるので、「日本インフルエンザ」という名前が使われているということでした。

結局、キャンセルしたいと言う生徒もいなかったもので、予定通り姉妹校訪問を実施しました。みんな2週間のプログラムを元気に楽しんで帰って来ましたが、皮肉なことに、彼らがテキサスに行っている間に、啓明で新型インフルエンザの感染者が報告され、部活動などが一時停止という事態になりました。

9月に新学期が始まってからは、大勢で集まる集会などは避けて、放送に切り替えるなどの措置をとりました。幸い、新学期早々には流行のきざしはなく、9月18日、19日の文化祭は無事に終わることができました。ところが、10月に入って感染者が出始め、中1、中2が相次いで学年閉鎖をせざるをえない状態になりました。そのため、運動会は三日間延期、集まって練習をすることができないので、男子全員の柔道の演技と、女子全員のダンスという、生徒も保護者も最も期待していたプログラムが中止になりました。秋の運動会がインフルエンザの影響を受けるような事態は、おそらく学園の70年の歴史の中で初めてのことと思われます。

これから、毎年夏にもインフルエンザに悩まされることになれば、文化祭など、大勢の人が集まる行事への影響は避けられません。また、強毒性のものがやって来た時に、どう対処するかなどを考えると、学校行事のあり方を根本的に考え直さなければならないかもしれません。



インフルエンザの影響は運動会にも